



7月 もんもんちゃん家の おはなし

第4号 2018/07/26

もんもん保育園 高野 洋奈

今年の夏は異常な暑さが続いています。子どもたちはプール遊びや水に親しむ遊びを楽しんでいます。又、室内の涼しい環境の中で夏ならではの遊びを工夫して遊んでいます。そして、今年は今まで以上に熱中症対策に力を入れています。ご家庭でのご協力に感謝致します。引き続き宜しくお願い致します。

あるお母さんから質問がありました！

Q：きょうだい2人いるんですが、同じタイミングで子どもが泣く時はどうしたらいいですか？他の方はどうされていますか？（母一人でいる時）

A：ごきょうだいがいる保護者の方に声をかけて聞いてみました！



○2さい差

A：時によって違いますが、下の子が小さい時（赤ちゃん）はそのまま泣かせて、先に上の子が落ち着くまで抱っこをします。

下の子が嫌々時期の時は上の子に我慢してもらい、下の子から関わるようにしていました。上の子に「我慢」をするっていうことを今後も分かって欲しいと思っていました。

気を付けていたのは**いつも下の子からではなく、順番に上の子が先、下の子が先と順番に抱っこ**をしていました。**特に上の子は我慢させていたので、その分、キューっと多く抱きしめていた。「お姉ちゃんなんだからね」とは言わないようにしていました。**

○2さい差

A：①子どもが泣いている声の大きさよりも大きな声で泣き真似をします。

子どもがピタッと泣き止んで親の顔を覗き込んだら、「ギュっ！！」と2人を抱きしめています。

スキンシップで2人の頬を私の頬にくっつけると、2人が笑うので気持ちの切り替えになります。

②あとは、ちっちゃな「おやつ」を持って「お散歩いこーか」と言って外に出て気分転換をします。

※怒っても逆効果なので、怒らないで子どもを笑わせて気持ちを変えるようにしています。

○3さい差（園長先生にも過去を振り返って聞いてみました！）

A：先に大きい子を抱っこして「どうしたの？」と気持ちを聞いてみます。室内なら、2人(母と上の子)で部屋の隅に移動して、落ち着かせます。屋外ならその場で抱っこをして対応していました。

それでも子どもが、だんまりして、何も言わないようなら「泣きたかったの？泣きたかったんだね。」

と子どもの心をなぞって、**ぎゅー**っと強めに抱きしめていました。その後、ゆっくり下の子にたっぷり関わりました。

ご協力くださった保護者の方有難うございました。

あるお母さんから質問がありました！

いつも朝食が同じ「パン食」になってしまいます

他の方は朝食どんなものを食べていますか？

保護者の方のお返事、質問もお待ちしております。ノートに記入頂くか、ご意見BOXに入れて頂くか、高野まで直接教えて頂けると嬉しいです。
裏あります！



今回のテーマ 「甘えをどこまで受け止めていいの？」

先日の職員会議のテーマの一つ「甘えをどこまで受け止めていいの？」について勉強会をしました。保育士の中でも迷うことがあり、どこまで受け入れていいのか葛藤していたと保育士の中でも話がありました。この勉強会をしたことで今までの保育のあり方が正しかったんだ。と保育士の自信にも繋がったようでした。ご家庭でも参考にして頂けると嬉しいです。

・子どもの気持ち（保育士の思い）↓

- ・靴を履かせて欲しい（本当は自分で履けるのに、履かせてあげていいのかな…？）
- ・抱っこして欲しい（今はご飯を配ってて手を離せないんだけどな…？）
- ・ズボンを履かせて欲しい（本当は自分で履けるのに、履かせてあげていいのかな…？）
- ・食事を食べさせて欲しい（本当は自分で食べられるのに、いいのかな…？）

等、子どもの甘えは様々で多くありますよね。

そこでNHK テレビ放送の「すくすく子育て」を参考に勉強会をしました。

十文字学園女子大学 特任教授 内田伸子先生の「甘えは子どもの自立にどう影響するのか」について研究され、その内容を題材に話し合いをしました。

お茶の水女子大学附属幼稚園の3歳児クラスの1組20名、2組20名の子どもたちを1年間保育観察をしました。1学期、1組の先生は子どもの甘えを受け入れ、ボタンを掛けてあげたり、靴下を履かせてあげたり、子どもの甘えを受け入れなんでも手伝ってあげます。そして、2組の先生は「自分のことは自分で、もう幼稚園生なんだから」と言って手伝わず、言葉で促すだけでした。

すると、3学期、2つのクラスの子どもたちに大きな差ができました。先生が子どもの甘えに応じた1組では、自分で着替えができるようになっていました。先生に対する信頼感が育ち、自分でやってみようという意欲が育ちました。しかし、先生が促すだけで手伝わなかった2組の子どもたちは自分から着替えようとする自主的な行動は見られませんでした。

“甘えは”子どもが自立していくときの安全基地になるもの、その愛着関係を土台にして子どもは自分の世界を広げていきます。そこで一人で挑戦すると失敗する時もあるけど、その時に「どうしたらいいだろう」と立ち戻れる。そして、また次に挑戦する。上手くいった時には達成感が持て、自尊心が育つ。十分に甘えられるような安全基地を根っこに持つということが、その人が将来、人として自立して生きていくための前提になることではないかと思います。

参考資料：NHK テレビ放送「すくすく子育て」番組の一部

勉強会の中で保育士からは…

- ・進級し、身の周りのことで出来ていたことができなくなった子どもがいた。「やって」という甘えを受け入れていたら、しばらくすると自分でできるようになっていたの、一時的な安全基地になっていたんだと今思った。
- ・「やって」と言われた時に迷って「自分でできるから、やってごらん」とそばで見守っていたことがあったが、3歳児でもおもいっきり甘えを受け止めていいんだと分かって良かった。
- ・「やって」と言う子に手伝っていたら、いつの間にか自分で着脱している子ども達が増えていたのはこの事だったんだ。
- ・何歳児でもできるのに「やって」と訴えてくる子には甘えを十分に受け止めていきたい。という意見が多く出ました。

ずっと続く訳ではなく、今だけのことと考え、ご家庭でも是非やってみてください。

